



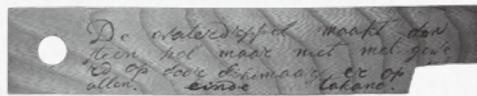
◀高野長英肖像(高野長英記念館蔵)

高野長英(1804-1850)は江戸後期の医師・蘭学者。文化元年、陸奥国胆沢郡水沢(現在の岩手県奥州市水沢)で後藤氏の第三子として生まれ、伯父高野玄斎の養子となる。22歳のとき長崎に赴いてシーボルトの門弟となり、翌年ドクトルの称号を与えられた。天保元年(1830)、診療のかたわら、江戸で蘭学塾大観堂を開いた。このころから吾妻郡の医師、役人、商人、農民との関係が生まれた。幕府の対外政策を批判して弾圧され、永牢(終身刑)となるが脱獄し、いち早く中之条付近に潜伏した。このとき吾妻の門人たちの多くが、恩師長英を庇護したと伝わる。その後全国を逃走したが、6年後に江戸で捕吏に囲まれ自殺、享年47歳。

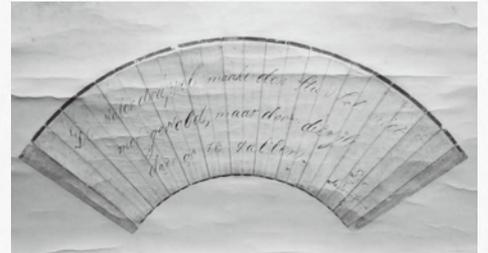


▼長英が弟子に与えた蘭文格言

たえねばや はてはいしをも うがつらん
かよわきつゆの ちからなれども



蘭文「滴水穿石」の竹製葉(個人蔵)



高橋景作の扇額(当館蔵)

▲福田宗禎肖像(個人蔵)

沢渡温泉丸大旅館当主、医師。
長英の指導で蘭語外科書を翻訳し、著作の発行を金銭面で支援した。



▲赤岩湯本家「長英の間」

湯本家(町重文)2階7畳半の隠し部屋に長英は匿まれた。



▲種痘の医具とワクチン(当館蔵)

高橋景作は孫に種痘を試み成功した。
牛痘漿は天然痘ワクチン。



▲植物標本(個人蔵)

天保年間に採集した湯本家の薬草標本(80種)。
昭和27年、牧野富太郎博士が鑑定し絶賛した。



◀『救荒二物考』(高野長英全集より)

馬鈴薯とソバの栽培・調理法を飢饉対策として説いた長英の著作。



◀大観堂陶印(当館蔵)

長英蘭学塾の塾頭を務めた高橋景作の遺品のなかに残されていた。

館長/学芸員によるギャラリートーク

日時 第1回 4月29日(土) 13:15~14:00
第2回 5月27日(土) 13:15~14:00
場所 ミュゼ企画展示室 定員 先着15名(予約不要)

次回の企画展 小栗上野介展(仮題)

日時 令和5年7月21日(金)~10月9日(月)
日本近代化の礎を築いた小栗上野介の功績、および小栗斬首後の夫人・母堂の会津逃避行に関する資料を展示します。
協力:東善寺(高崎市倉渕町権田)

Access



- JR中之条駅より徒歩15分
- JR中之条駅前から路線バス(四方温泉行)で5分「博物館前」下車、徒歩3分
- 関越自動車道 渋川伊香保ICから車で40分